



埋文だより

第40号

平成18年 2月24日発行

遺跡で出土する多種多様な遺物から、私たちは当時の人びとの生活や精神文化の一端を知ることができます。

現在、発掘調査・整理作業中の遺跡には、装身具(アクセサリー)が出土している遺跡があります。どんな人が身につけたのか？ おしゃれのためだったのか？ それとも特別な意味があったのか？ 土の中から現れた装身具から当時の美意識に思いを馳せてみてください。

尾ヶ原遺跡(南さつま市)
垂飾(縄文時代晩期)

尾ヶ原遺跡(南さつま市)
土製勾玉(縄文時代晩期)

山ノ中遺跡(鹿児島市)
垂飾(縄文時代後期)

勾玉や垂飾は、紐を通し、現在のネックレスのようにして使われたと考えられています。いろいろな種類の石や土製のものなど、その素材もさまざまです。

縄文人の アクセサリー

耳栓とけつ状耳飾は、現在のピアスに相当するものと考えられています。耳栓は耳たぶに孔を開け、その孔を広げてはめていたようです。

尾付野山遺跡(さつま町)
垂飾(縄文時代晩期)

陣之尾城跡(大口市)
耳栓(縄文時代早期)

三角山遺跡(中種子町)
けつ状耳飾(縄文時代早期)

鳴野原遺跡B地点(川辺町)
耳栓(縄文時代晩期)

目次

- ・縄文人のアクセサリー … 1
- ・平成17年度 センター業務成果の速報 … 2, 3
- ・地中レーダーについて学ぶ/センターの仕事
を学ぶ/企画展のご案内 … 4
- ・センターの仕事 発掘作業編 その3 … 5
- ・現地説明会を2つの遺跡で実施! … 6

センター業務成果の速報

～旧石器時代から昭和までの歴史を振り返る～

今年度も県内22か所で発掘調査を行い、35遺跡の図面・遺物の整理を行うことで、先史古代の人びとの息づかいを感じることができる一年でした。そこで、時代ごとに主な遺跡と遺物を紹介し、その調査の成果をまとめてみました。

出土遺物数は、なんと53,311点！

1 仁田尾遺跡ほか(鹿児島市)

始良カルデラ大爆発(約2万5千年前)以後の人びとの生活の痕跡が確認され、この一帯が旧石器時代の重要な場所であったことが明らかになりました。また、出土した遺物の観察から、当時の人びとが狩猟具を開発して、過酷な時代を乗り越えていった様子をうかがい知ることができました。



タイトルや図の中の次の印は、
● 発掘調査
▲ 整理作業
■ 報告書作成

60年間埋もれていた銃弾

12 前畑遺跡(鹿屋市)



海上自衛隊鹿屋航空基地(旧日本海軍鹿屋航空基地)から北へ2km程離れた場所で、先の大戦中の状況を物語る銃弾・薬莖、航空機の部品、コの字形掩体壕跡等が発見されました。

大溝から出た陶磁器

▲ 上水流遺跡(南さつま市)



平成16年度に発掘した溝(幅3～5m、深さ1～1.5m)の中から出土した焼物を洗って調べたところ、17世紀頃の薩摩焼や肥前産の陶磁器、中国・東南アジア産の陶磁器が含まれていました。これらは、県内ではあまり発見されていない時代のもので、注目されています。



薩摩焼の最古級の窯

▲ 堂平窯跡(日置市)

堂平窯跡は、豊臣秀吉の朝鮮出兵(文禄・慶長の役)のとき、島津義弘によって薩摩へ連れてこられた朝鮮の陶工たちが造った17世紀代の窯です。朝鮮的技法が色濃く残る薄手の甕や壺、鶴丸城の屋根を葺くための瓦などが出土しました。



狩猟のための落とし穴

2 唐尾遺跡(曾於市)

発見した落とし穴は8つで、落とし穴の底には穴に落ちた動物を動けなくするための逆茂木という杭の跡が残っているものもありました。当時この一帯で盛んに狩りが行われていたことを物語るものです。

定住集落の発見

4 定段遺跡(曾於市)

この遺跡では、竪穴住居跡と思われる遺構約40軒、土坑約200基、集石約50基が発見されました。定住生活の始まりや、南九州縄文文化の形成過程を解明する手掛かりをあらわす遺跡となりそうです。

粃の痕のついた土器片

3 市ノ原遺跡(日置市)

粃の痕が付いた縄文時代晩期と古墳時代の土器片が見つかりました。この頃から米を食べていたのでしょうか。

土坑墓からの出土品

5 堂園遺跡A地点(川辺町)



昨年調査していた弥生～古墳時代の墓の1基から鉄鏃が3本重なって出土しました。この鉄鏃は柄に桜の木皮で固定してありました。

花びらの形の住居跡

6 根木原遺跡(鹿屋市)

花卉状の住居跡が7軒検出されました。花びら状の間仕切りを持ち、遺構の中からは甕や壺などの土器も出土しました。



地下式横穴墓

7 陣之尾城跡(大口市)

地下式横穴墓は、地表からまっすぐに穴を掘った後、横に穴を掘り進めて部屋をつくり、そこに人を埋葬するものです。今回、人の骨や副葬品(死者に添える品)は残っていませんでした。



中国産の青磁

9 馬塚松遺跡(日置市)

13～14世紀の掘立柱建物跡24棟、土師器の杯・皿、青磁類などが発見されました。なかでも青磁は、中国南部の龍泉窯で生産されたものが多く、当時の交易を考える上で重要な遺物です。



溝に堆積した火山灰

8 関山西遺跡(曾於市)

文明3年(1471年)から6年間続いた桜島の火山活動によって噴出した火山灰や軽石が溝に堆積した状態で見つかりました。溝の断面はV字状で、写真の白っぽく粗い粒の部分はその火山灰です。



地中レーダーについて学ぶ

— 技術研修講座を実施 —

1月26日、27日の2日間、県内の30市町の埋蔵文化財担当者40名の参加のもと、技術研修講座を実施しました。1日目は、琉球大学の後藤雅彦先生による「発掘調査における地中レーダー機器の活用方法」についての講義と、上野原遺跡内での探査実習を

行いました。

2日目も、後藤先生にレーダーで得られた分析結果の読み方について

講義をしていただきました。また、市町の担当者から地中レーダーを活用した調査について事例報告をしていただきました。その後の意見交換会では、市町村合併に伴う埋蔵文化財担当職員の配置についてなど、県下自治体の抱える課題について話し合いがなされました。




センターの仕事を学ぶ

— 職場体験学習 —

1月26日と27日の2日間、霧島市立国分中学校の2年生6名が職場体験学習に訪れました。1日目は土器や石器の水洗いや土器の接合などを行い、2日目は遺物の実測や、実測図のトレースなどの仕事をセンター職員や作業員さんに教えてもらいながら体験しました。参加したみなさんは、考古学の世界にさらに興味をもったようです。



上野原縄文の森 第14回企画展

ただ今開催中の 
 Ueno-hara Jomon no Mori, Kagoshima

新発見！かごしまの遺跡 2006

平成18年2月4日から、上野原縄文の森展示館では、第14回企画展「新発見！かごしまの遺跡2006」を開催しています。今年度の発掘調査及び報告書作成を行った遺跡の遺構の写真や遺物等を多数展示しています。また、3月11日(土) 13:30～15:00には特別講演会として、実際に発掘調査を担当した3名による遺跡の紹介を予定しています。ぜひ上野原縄文の森にお越しください！



センターの仕事 発掘作業編(その3 発掘現場での記録の仕方)

発掘現場で行う仕事は、丁寧に土を掘り下げ、遺物（昔の人が使っていた道具など）を取り出すことだけではありません。遺跡を残した人びとの生活とおよその年代を知るために、遺跡から出土した遺物や発見した遺構（昔の人が生活のために掘った穴や建物の跡など）の位置や発見した状態を、パソコンや実測図・写真に記録します。

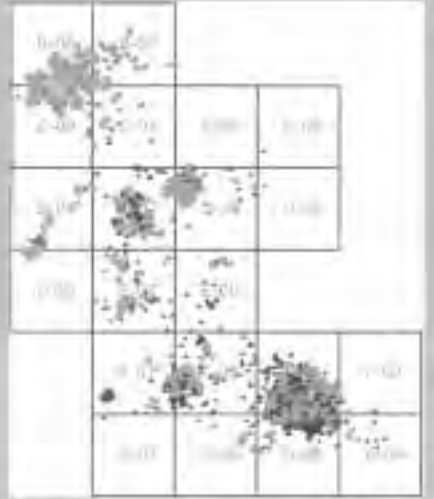
今回は、この記録の仕方やその苦労話を紹介してみたいと思います。

測量機械を使った出土位置の記録



精密機械で多くの位置情報を記録します。急な雨などに備えて機械から目を離せません。

出土位置を示した図



ラジコンヘリを使った遺跡の写真撮影



専門業者をお願いして撮影を行っています。風の強い日は操縦が難しいそうです。

上空から撮影した遺跡



天候に左右されたり、たき火の煙に困ったりして、撮影をやり直すこともしばしばです。



出土状況の実測図



土器の出土した位置や傾き、方位などを詳しく記録しています。

実測中の職員



夏は汗で記録用紙をぬらしながら、また、冬は寒さに耐えながら実測図を書いています。

住居跡の実測図



大きさだけでなく床の硬さ、いっしょに出土した遺物の位置なども記録しています。

地域が育む「かごしまの教育」県民週間

現地説明会を2つの遺跡で実施！

今年も、地域が育む「かごしまの教育」県民週間にあたり、11月5日に指宿市、12日に曾於市で現地説明会を実施しました。合わせて259名の方が見学に訪れました。

南摺ヶ浜遺跡（指宿市）



地層の説明

南摺ヶ浜遺跡では、開聞岳の噴火で厚く降り積もった火山灰の様子や、縄文時代晩期（約2500年前）の遺物包含層から出土した遺物等の説明を行い、発掘体験も行われました。ここでは874（貞観16）年の開聞岳の噴火で降り積もった通称「紫コラ」により覆われた当時の木の葉が良好な状態で見つかっています。当日は、完全な形で見つかった古墳時代（約1500年前）の成川式土器の壺を中心に、今までの発掘調査で出土した遺物等も時代ごとに展示しました。

建山遺跡（曾於市）



発掘体験

建山遺跡では、旧石器時代（約25000年前）の始良カルデラの噴出物「シラス」から、1471（文明3）年の桜島の噴出物の通称「文明ボラ」までの各時代の主な火山灰の堆積の様子を土層断面で説明し、舞錐による古代の火起こしや発掘体験などが行われました。当日は、平成8年度から行われている東九州自動車道建設に伴う17か所の遺跡の発掘調査で出土したたくさんの遺物も展示しました。参加者は、「地域にこんな宝物があるとは知らなかった」という感想を残してくれました。



家族で土器探し



見学者へのおみやげ（手作りの火山灰標本）

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターのホームページは上野原縄文の森(<http://www.jomon-no-mori.jp>)からお入りください。

埋文だより 第40号

発行日 平成18年 2月24日

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市

国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820

E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp